

血液検体の採取方法・ポイント

野生イノシシの血液検査に適した血液を採取するためのポイント
検査を実施するためには、検査機関へ送付する前に採取した血液を凝固させないよう、血液採取から冷蔵送付までの作業を迅速に行うことが重要です。以下のポイントを参考にして検査に適した血液を採取しましょう。

1 止め刺ししてからなるべく早く採血する



- 止めさしてから時間が経過すると、体内で血液が固まってしまうのでなるべく早く採血しましょう。
- 可能であれば、写真のように止めさし後すぐに箱罌等に吊るすと血液が流れやすくなり、素早く採血できます。

2 傷口付近の体腔内にたまった血液を採取



- 刃物で止め刺した場合、傷口(左の写真の黄色い丸の部分)付近の体腔内(腹腔の上端部に相当する)に血液がたまった状態になります。イノシシの身体を傾けて体腔内の血液を外に流出させ、採取します。
- 電気のみで止め刺した場合は、喉の下を刃物で切開して出血させ、採取します。

3 紙コップで血液を受ける



- 流れ出てくる血液を採血管で直接受けるのは困難です。紙コップなどの少し大きめの使い捨て容器を準備し、血液を受けるようにしましょう。

血液検体の採取方法・ポイント

4 紙コップから採血管に血液を移す



- 紙コップから採血管へ血液を移します。 できるだけ血液を外にこぼさないよう、紙コップの縁を折って慎重に流し入れてください。
- 採血管の蓋を閉めたら、薬用アルコールをスプレーで吹きかけて消毒してください。
- 使い終わった紙コップや手袋は放置せず、ビニール袋にまとめてすぐに処分しましょう。

5 血液を入れた採血管はなるべく動かさない



- 血液を入れた採血管は優しく丁寧に取り扱いましょう。
- 血液を大きく動かすことも固まる原因になります。血液を運ぶ際はそっと動かすように意識してください。

ポイント

現場に凍らせた保冷剤、保冷バッグ等を持参してすぐに保存すると血液の状態も良くなります。

6 血液を入れた採血管はすぐに冷却する



- 常温では急速に品質が低下するので、すぐに凍った保冷剤とともに保冷バッグに入れてください。
- 特に夏場は気温が上がり血液が固まりやすくなります。
- また、当日に冷蔵便で送付できない場合は、血液の温度が上がることを防ぐために冷蔵庫で保管してください

ポイント

出来るかぎり採取日当日、遅くとも1週間以内の送付に努めましょう！

